

稲門フィラテリー 第84号

2022年6月1日発行
<http://www.talcen.com/tofila.html>

明治の東京・深川 郵便局ぶらり散歩(1)

鎌倉達敏

1. はじめに

稲門フィラテリー 20 周年記念切手展に標記テーマで3フレーム出品させて頂きました。22年前の早大切手研究会 50 周年記念展(平成 11 年 11 月 11 日)以来の早大切手研関連のイベント参加でした。

実は、上記イベント参加を契機に本格的な切手収集を再開し、現在に至っています。今の収集の 3 本柱は、震災切手の製造面での研究、地元湘南を中心とした「相模の郵便印」収集、そして生誕地「東京・深川」の郵便印研究です。

今回の 20 周年記念切手展には、東京での切手展ですから、テーマとして「東京・深川」を選択しました。しかし、郷土の郵便印の作品展示の場合、注意しなければならないのは、古い郵便物が中心の独りよがりの展示となり、余程の専門家でなければ、一般的には見て頂けないという現実があります。

そこで、郷土の郵便印の作品を、一般の方に見て頂くには、どうしたら良いか考えました。ヒントは有りました。数年前のある切手展で、一般の方と思われる見学者が昭和初期の郵便物のリーフを食い入るように見ているのです。

何か興味持たれましたかと尋ねてみました。

実は、展示されている郵便物の住所が現在住んでいるマンションの住所と近いので面白いと思ったという事でした。やはり、興味を持って頂くには、見学者との何らかの接点が必要かなと思いました。その接点は、場所なのか、時代なのか、テーマなのか、何れでも良いかも知れません。この作品では、現代(場所、郵趣品)との接点、歴史散歩(旧所・名跡)との接点を導入部として、古い郵便局・郵便物・郵便印へ誘う構成を試行してみました。数回に分けて連載させて頂きます。

2. 明治の東京・深川 郵便局ぶらり散歩

明治年代、東京深川には、次のページに示す 16 の郵便局(名称は異なりますが)が存在し、明治末までに各局変遷が有り、12 局になります。各郵便局から発信された郵便物は、全国に残されており、この作品でも各局の明治時代の代表的な使用例(郵便印)を紹介する事にします。

一方、郵便局自体は、各局の変遷、関東大震災及び太平洋戦争による大空襲により、かつて所在した場所には、残されていません。そこで、明治時代の地図

(明治 39・40 年)をたよりに、現代地図と照合しながら、3つの時代区分順に、かつて郵便局が存在した場所をめぐる「郵便局ぶらり散歩」もする事にしました。現在の周辺の状況を画像で伝えるとともに、新旧の名所・旧跡も訪問し、現行郵便品と併せて紹介していきます。

3. 深川管内局の変遷

まず、郵便局の全体像を知るために、明治年代の深川管内郵便局の変遷を、下の3つの時代区分で、局名改称を含めて、下表にまとめてみました。

- 1.管内集配局の変遷
- 2.郵便受取所の時代
- 3.三等無集配局の発展

	深川管内局名		明治5年	11年	16年	21年	26年	31年	36年	41年
	局名改称		郵便仮役所	郵便分局	郵便支局	郵便電信支局	郵便局	郵便受取所	三等無集配局	
①管内集配局の変遷	南深川	深川	5.3.1開設							
			5.6.1							
		南深川	5.8.-							
			8.1.1		16.5.23	18.8.31廃局				
	北深川	深川六間堀	5.9.1開設							
			8.1.1							
		北深川		14.2.-						
	深川	東京深川			18.9.1開設					
		深川						39.1.1		
	深川富吉町			12.-		19.3.31廃局				
②郵便受取所の時代	猿江町			12.-		18.10.-廃局				
	東森下町	東京東森下町			18.9.1					
		東森下町				27.2.1				
		深川東森下町					31.11.16			
	深川万年町	万年町一丁目			18.12.1					
		深川万年町					31.11.16			
	深川洲崎弁天町	洲崎弁天町一丁目			21.10.					
		深川洲崎弁天町					31.11.1			
		深川洲崎						39.1.1		
	深川富岡門前仲町	深川富岡門前仲町			23.5.					
		深川富岡門前						39.1.1		
③三等無集配局の発展	深川高橋	東京高橋						37.12.21		
	深川富川町	深川富川町			17.-					
		東京富川町			~19.4.22					
		深川西町					30.4.1			
	深川入船町							35.2.16		
	深川大和橋							35.11.16		
	深川安宅町	深川安宅町						36.12.2		
		深川西六間堀							43.7.18	
	深川黒江町	深川黒江町						37.12.2		
		深川福住町							44.12.1	
	深川霊蔵町								42.6.11	
	深川猿江裏町								43.6.16	

4. 深川管内局の配置（明治 39 年地図）

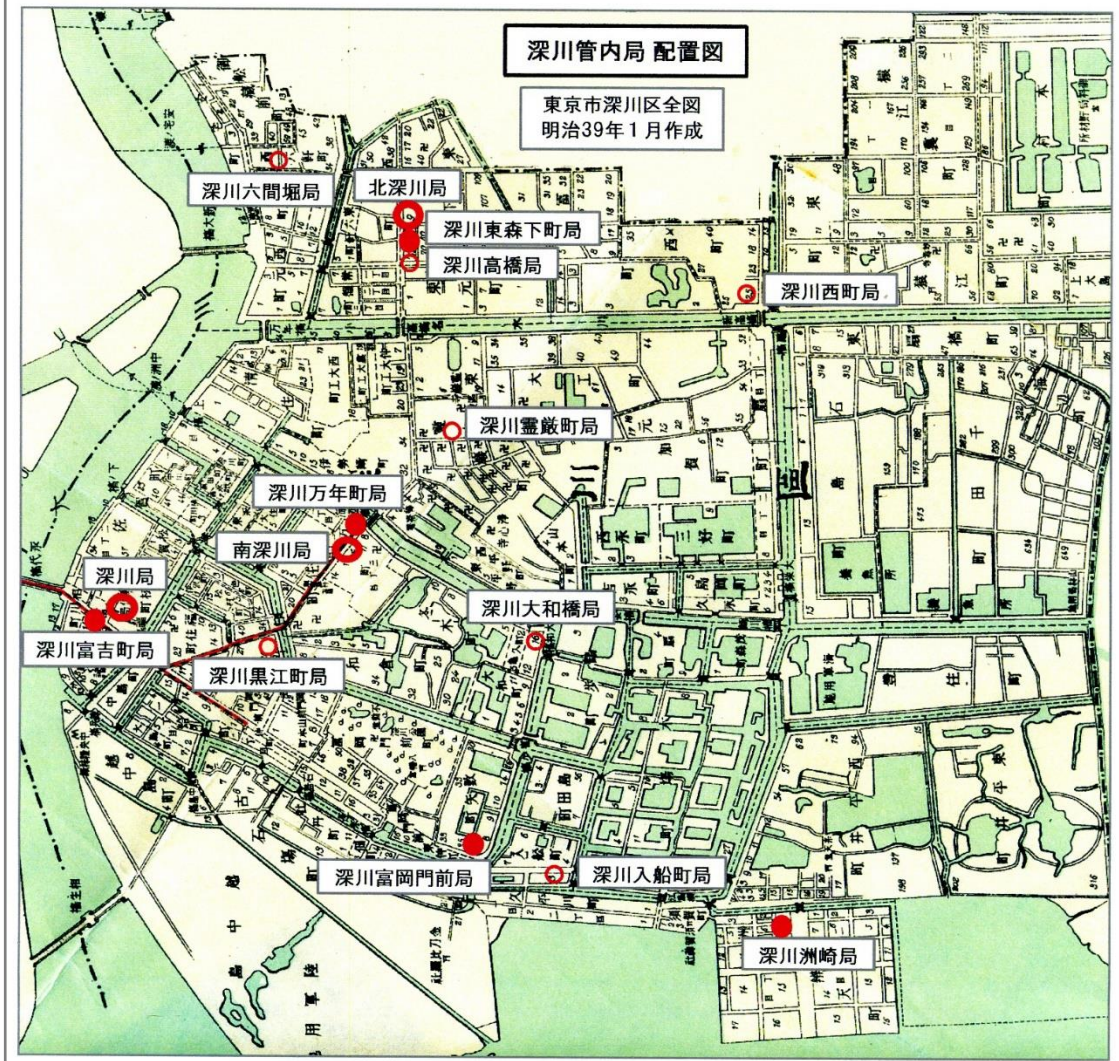
次に、明治年代、東京深川に存在した郵便局を、下記 3 区分に従い、明治時代の地図に配置してみました。

明治 39 年の地図ですが、深川区は河川と貯木のための掘割が多いことがわかります。町の中心は、墨田川沿いで、南は佐賀町付近、北は小名木川の荷揚げ地、

高橋付近になります。それぞれの地域に南深川局、北深川局が開設されています。

市電も門前仲町（富岡八幡）、南深川局付近（深川万年町）までしか来ていません。かつて遊郭があった洲崎も三方、海に囲まれています。墨田川の橋も、まだ、永代橋と新大橋しかありません。

1. 管内集配局の変遷 ○ 北深川・南深川・深川局
2. 郵便受取所の時代 ● 富吉町・東森下町・万年町・洲崎・富岡門前局
3. 三等無集配局の発展 ○ 高橋・西町・入船町・大和橋・西六間堀・黒江町・霊巖寺町



5. 深川管内局の配置（令和元年地図）

現在の位置関係を知るために、郵便局を、現代の地図にも配置してみました。

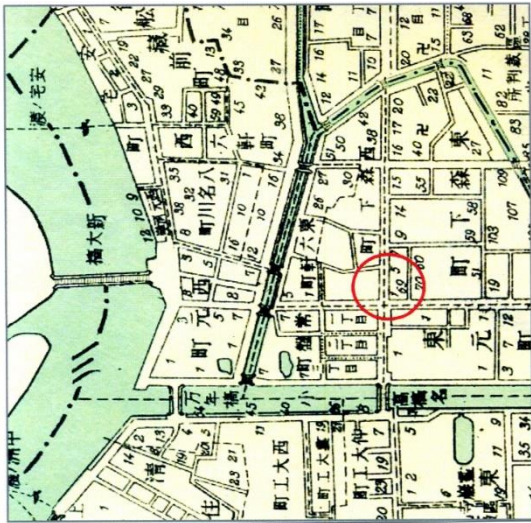
令和元年 5 月の地図ですが、深川区と城東区(南葛飾郡)が一緒になり、江東区を構成しています。現在も局名と所在地に名残を残しているのは、森下町局、江東洲崎局くらいで、その他の郵便局は、移

転改称して残っていません。ただ、この作品を作るために、かつて局があった場所を訪れた際に、気が付いたことですが、郵便局はないのですが、近くには必ず郵便ポストがあるのです。これも、何らかの名残なのでしょう。また、洲崎周辺は埋め立てられ、海に面してはいません。

1. 管内集配局の変遷 ○ 北深川・南深川・深川局
2. 郵便受取所の時代 ● 富吉町・東森下町・萬年町・洲崎・富岡門前局
3. 三等無集配局の発展 ○ 高橋・西町・入船町・大和橋・西六間堀・黒江町・霊巖寺町



6. 北深川局のぶらり散歩と郵便印



所在地：深川区東森下町

東京十五区集 本所及深川区之部 明治39年版

それでは、北深川局からぶらり散歩していきます。北深川郵便局の局歴は、下枠の記述とおりですが、「深川六間堀」郵便仮役所から始まります。その後、明治14年2月の火災により、「北深川」郵便分局と、移転改称しています。

所在地は、現在の都営地下鉄 森下駅近くの江東区森下2丁目になりますが、現在この場所に郵便局はありませんが、何故か郵便ポストが配置されています。

その後、明治18年9月の深川局への統合により、その歴史は東森下町郵便受取

現在の周辺写真

撮影方向 上図→方向



現在の地名：江東区森下2

東京都区分地図:昭文社刊 平成元年5月版

所として、引き繋がれていきます。

周辺には、深川芭蕉庵跡（芭蕉稲荷神社）があり、江東区立の「芭蕉記念館」も開設されています。

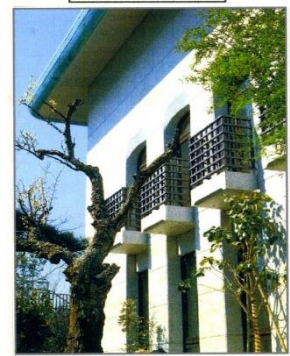
右の切手は松尾芭蕉を描いています。



奥の道シリーズ第1集

- 北深川郵便局
- ・明治5.9.1 郵便仮役所として設置 設置名称「深川六間堀」
- ・明治8.1.1 郵便分局に改定
- ・明治14.2- 「北深川」と移転改称 (1.26火災により焼失のため)
- ・明治16.5.23 郵便支局に改定
- ・明治18.8.31 廃止
- ・明治18.9.1 東森下町郵便受取所として引き継ぐ

芭蕉記念館



北深川局の郵便印として代表的な3リーフを紹介します。

六間堀郵便仮役所時代の郵便物は、発見されていません。郵便物の抹消、証示

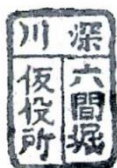
は東京本局でしていたためです。左下の付箋の証示印が唯一確認されています。

右の金子入り書状の「東京 北深川郵便局」の二重丸型局所印も珍しいものです。

明治5.9.1～6.3.31

深川六間堀仮役所

明治5年、9月1日、北深川に六間堀郵便仮役所が開設されたが、管内で差出された郵便物の切手抹消は東京本局でのみ実施されていた。切手抹消印は使用されなかった、証示印として、仮役所印が使用された。



証示印 角型朱印
「深川六間堀仮役所」

北 深 川 局

明治14.2～16.5.22

北深川郵便分局

明治8年、1月1日、郵便分局に改定され、明治14年2月火事により北深川郵便局に移転した。管内で差出された郵便物の切手抹消は東京本局抹消のみ実施された。引続き、東京本局抹消印は使用されなかったが、金子入り書状では証示印として、二重丸型局所印が使用された。



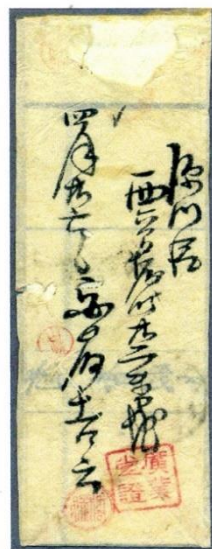
証示印 二重丸型印
「東京 北深川郵便局」



大和国宇陀差立 深川宛
付箋 区扱所戸籍取調候得共名宛無
之趣二付継戻送二候也
七月十五日 北深川



◎北深川郵便局
二重丸型局所印
金子入書状金50銭入
深川西六間堀差立飯田町宛
東京N2B2
明治14年4月27日と
八花卉抹消



(封筒裏面)

2 リーフ目は、初めて、北深川局として、切手の抹消が許され使用された北深川郵便支局の二重丸型日付印「N3B2」型です。但し、自局内及び一部東京市内宛て（連合局）の郵便（補助便）にしか使用できませんでした。それ以外は、東京本局で

抹消されました。左下は、明治 16 年 1 月 2 日に便（本所支局宛て補助便）の貴重な初日使用です。

右下は、明治 17 年 1 月 13 日ち便、新富支局宛ての補助便使用です。

北 深 川 局

明治16.1.2~18.8.31

二重丸印「N3B2」

北深川郵便支局

明治16年1月2日より、ボタ印を使い始めた東京支局で、証示印として使用された。
自局及び連合局宛の補助便のみ使用された。

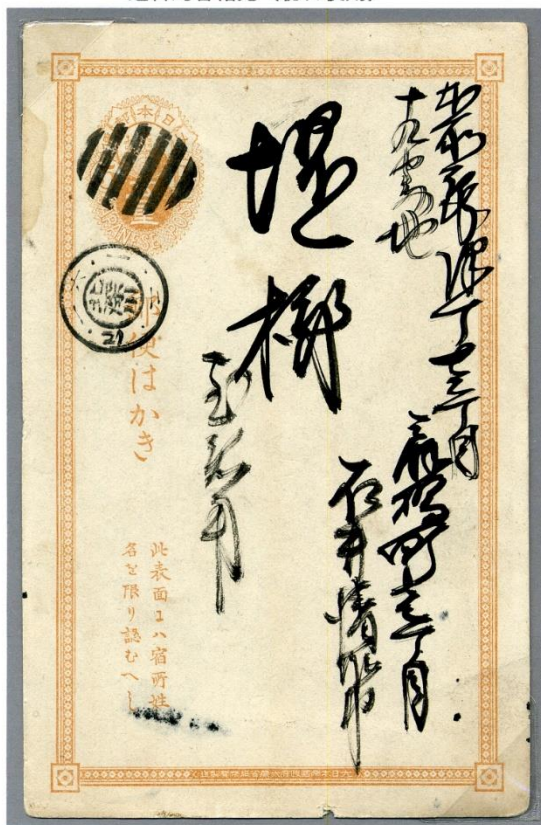


N3B2

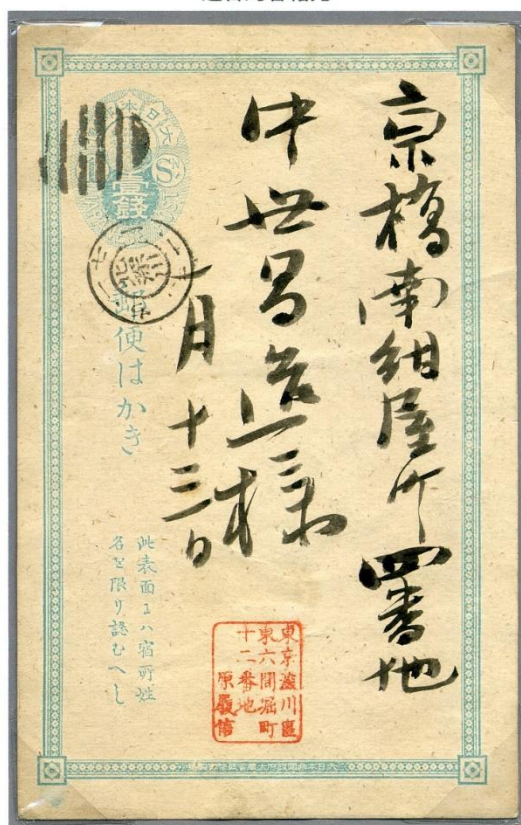
明治16年11月29日からは、自局と連合局宛の郵便物については、本便・補助便にかかわらず切手抹消することになった。本便12便は「N3B3」、補助便11便は「N3B2」で捺印した。

連合局管轄宛（初日使用）

連合局管轄宛



北深川 明治16年1月2日に便
深川扇橋町→本所亀澤町（本所支局）



北深川 明治17年1月13日ち便
深川東六間堀→京橋南紺屋町（新富支局）
補助便使用で、新富支局は連合局

3 リーフ目は全国宛てに使用出来るようになった二重丸型日付印 N3B3 型と N3B3S 型です。北深川局の封書便は葉書に比べ

大変貴重な存在なのですが、東京府外宛てとなると、下記2例のようにその使用期間は更に短く、希少なものになります。

北 深 川 局

明治16.1.2~18.8.31

二重丸印「N3B3」

北深川郵便支局

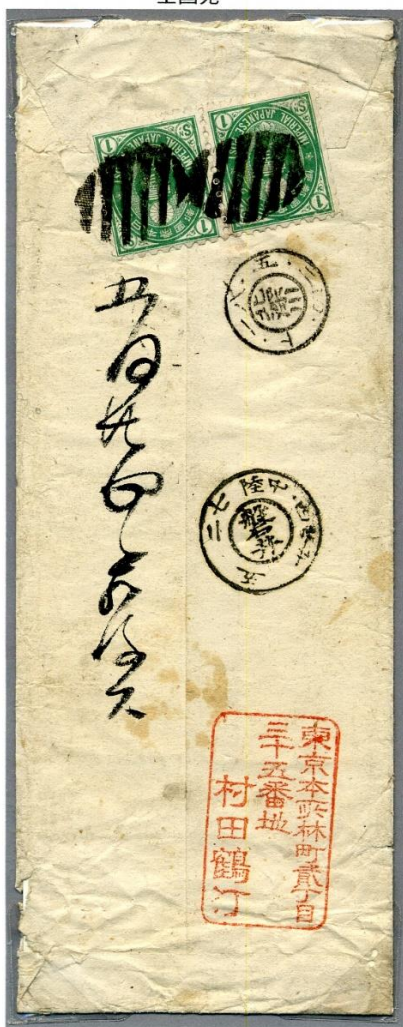
「N3B3S」

明治18年4月末より、全国宛の郵便物も各支局で切手抹消するように改正。府内外宛のN3B3は使用期間が一カ月と非常に短い。



N3B3

全国宛



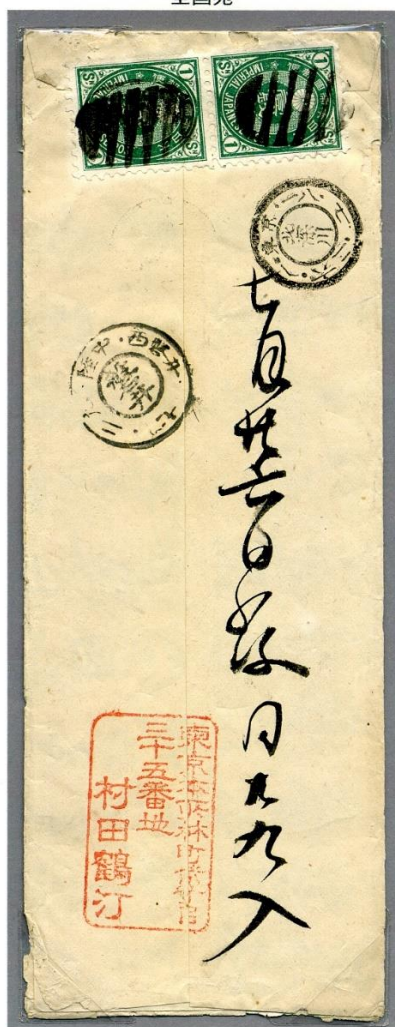
北深川 明治18年5月24日ト便
東京・本所林町→陸中・磐井
陸中・西磐井・磐井KG 5月27日



N3B3S

全国宛

これまで、支局の切手抹消は東京府内に限定されていたため、全国宛には、東京名の挿入が必要になり、N3B3S印が導入された。



北深川 明治18年7月26日へ便
東京・本所林町→陸中・磐井
陸中・西磐井・磐井KG 7月29日

山に魅せられて(1)

三村 正光

私が山に興味を持ったのは高校に入った頃だった。山岳同好会に入会したが、当時何故山に魅力を感じ入会したのかはよく覚えていない。ただ言えることは、高い所へ登るのが好きで山への憧れがあったということだ。

「何故、山に登るか。そこに山があるからだ」はイギリスの伝説的登山家、ジョージ・マロリーが口にしたという余にも有名な言葉がある。「山は人生に似ている。目先の小さな目的に捉われず、その山の頂を目指し、ただ一生懸命登ればいい。それが充実した人生を過ごす秘訣なのだ」とも伝えられているが、マロリーがいう「山」は観念的な意味ではなく具体的な「実在する山」、その山は「エベレスト」だということだ。(1923.3.18 付ニューヨークタイムズ記事)

前置きはさておき、高校時代は春、秋の連休、夏休みに活動していたが、赤岳、乾徳山、大菩薩嶺等に登った記憶がある。会社に入ってから山岳部もあったが入部せず、当時は先輩、同期、職場の仲間との付き合いでゴルフ、麻雀、飲み会に明け暮れていた。

会社を定年退職して何をするかと考えたとき、脳裏をよぎったのは登山と写真だった地元公民館に「山(さん)歩会(ぽかい)」という山の会があり入会した。同時

に山の会の先輩に誘われて「写真の会」にも入会し「老後のたしなみ」がスタートした。「山歩会」では月1回関東地方の山を日帰り、夏には北、中央、南アルプス等を泊りがけで登山した。登山は事前の計画が大事で地図を開きながら行程を調べ、どの登山口から登り、どういうルートでどこを通りどこで昼食を取り何処へ下山するか、途中で難路、難所はないか等精査し綿密に作成する。

時には山の管轄地域の役所、観光協会、警察等に連絡し登山ルートの通行止め、迂回路等道路状況を確認し会員が安全に登山できるよう計画を策定する。もちろん、天候が一番大切で前日昼の天気予報を見て決行、中止を決定する。降水確率40%以上は中止にする。関東の首都圏エリアは平野部なので山に行くには2時間位の時間を要する。

登山に行くことは“山旅”であり、色々準備に要する時間も楽しみの一つである。そこには、その山城の文化、信仰、生活があり、藪漕ぎ登山もあれば、きれいな立木の並ぶ森林地帯あり、時には頂上近くに岩場、鎖場もあり、変化に富んだ自然風景と共に山歩きを楽しめる。登山の醍醐味は大自然に触れ、花に出会い、風を感じ、雲とともに歩む行程だ。多くの山の同好者とも出会い語らう。山

での話は、皆明るく楽しげに登られたコースや山小屋、山風景などを自慢げに話をする。山の魅力は何だろう。山を制覇した達成感だけでなく何時間もかけて歩むその道程には、出会い、出来事、登った者だけが味わえる絶景がある。歩行中は世の中の雑念を忘れ無の境地になれることも最高だ。

登山を始めて数年後、より高みを目指して日本アルプスにトライしたいと思うようになった。当時は NHK で日本各地の「百名山」を取材、放送していた。登山をする者にとって百名山は憧れである。百名山を世に知らしめたのは、1964 年に出版された深田久弥の「日本百名山」である。読売文学賞を受賞したこともあり、都市近郊の山々への軽登山が流行り、登山が大衆化して登山ブームが巻き起った。当時は交通も発達しておらず、山梨、信州方面へは夜 11 時台の夜行列車に乗って



劔岳と立山連峰

生物多様性条約 COP10



劔岳・富山県

日本の山岳シリーズ第3集

早朝目的の駅についても、バス便もなく駅から山に向かって長時間ひたすら歩き通す登山であった。私も帰りの電車で座席に座れず吊革につかまっていたが、疲れと睡眠不足と電車の振動で睡魔に襲われ、しばしばヒザがガクガクと折れたのを思い出す。

日本アルプスで最初にトライしたのが劔岳だった。劔岳は立山連峰にある標高 2999m の山である。難易度が高く難いと言われ、鎖場も多くカニのタテバイ、帰りはカニのヨコバイという難所を攻略し



劔岳山頂にて

なければならない。登山ツアーに参加したが難しい山は若いうちに挑戦したいと思った。毎年のように滑落事故が発生し行方不明者も出ている。鎖に頼りすぎてはダメで、自分でしっかりステップを踏み、手を伸ばしてホールドを確保しながら三点確保で登っていく。岩場は登りよりも下りの難易度が高く、腹ばい状態で斜面を降りるが、下が見えず安定した足の置き場に苦労する。それでも、鎖が有るところはいいが鎖が無いところは慎重に時間をかけて降りていく。岩場登山に必須なのはハーネスとスリング、カラビナで、安全登山のための落下防止登山用具だ。

劔岳は「劔岳 点の記」として新田次郎の小説が映画化（2009年）された。明治時代末期、陸軍参謀本部陸地測量部（現在の国土地理院）の測量官に当時未踏峰とされていた劔岳への登頂と測量の命令が下され、実際に飛騨山脈（北アルプス）の立山連峰で行われた山岳測量プロジェクトを扱ったもので、日本地図を完成させるために信念と勇気をもって困難な山岳測量に取り組んだ男たちを描いている。

（つづく）

■新宿北郵便局に黄金のポスト登場

東京 2020 オリンピック大会で金メダルを獲得した女子レスリングフリースタイルの須崎優衣選手は早稲田大学に所属しています。2022 年 3 月 25 日、須崎選手にゆかりのある地域郵便局として新宿北郵便局前のポストがゴールドでラッピングされました。



須崎選手の名前が記されたプレート



悪趣味をコラボする(切手と厠) 1.

2つ DATABASE を

KEYWORD 「宮殿」を検索

編集幹事を辞し、ホッとしていた。まもなく、1 通の MAIL、現編集幹事からである。悪趣味をコラボして連載を書けというもの。原稿が寄せられず、長年にわたり苦しんだ身、受けざるを得ないかと覚悟した。我が悪趣味は落語、厠、切手。コラボできるのは会報 29 号(2008 年 9 月)で紙面を汚して、お叱りを受けた「切手に厠の香を聞く」の続編しかない。お叱りは編集幹事にお願いします。

趣味の資料はすべて DATABASE にしてある。画像、文字情報で 2 つの DATABASE に 3 万件ぐらいが PC に記録されている。今回、一つの KEYWORD を 2 つの DATABASE で検索し、その結果をなんとかまとめてみたいと考えた。

◎検索結果

双方でヒットして示されたのが桂離宮、二条城(住宅で国宝指定)、ベルサユウ宮殿、シェンブルグ宮殿、ROYAL SEAT の 5 件であった。それぞれの香を聞いていきたい。

●桂離宮

切手は 2 種しかヒットされない。貴重な庭園、建築が残された文化財、もう少し切手になってもと、感じるが宮内庁管轄では仕方ないか。

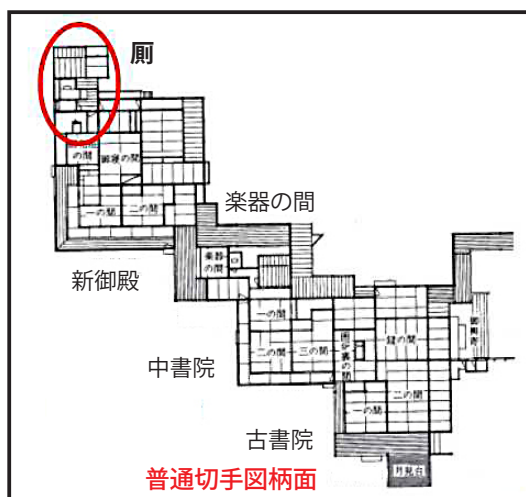


1974 年 年賀切手桂離宮の松琴亭長押の水仙の釘隠し、背景に襖障子と床の青と白の格子模様

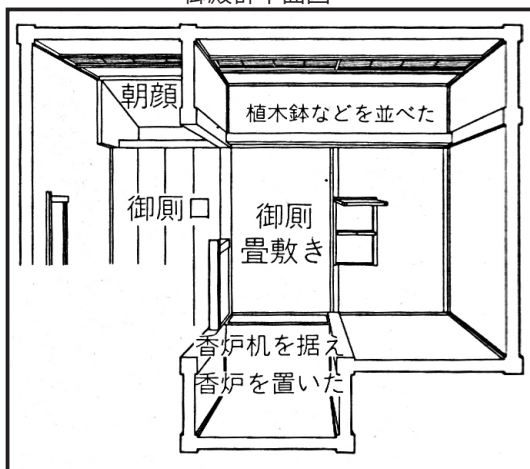


1966 年普通切手新動物園国宝切手桂離宮古書院

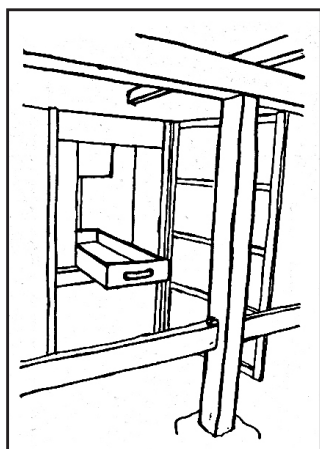
桂離宮には 5 ケ所、厠がある。我が DATABASE には 2 ケ所の資料しかない。一番豪華で有名なのが御殿群の新御殿の北側の厠であろう。厠は下図のように畳二畳の間に春慶塗の樋筒(大便器)、壁紙は黄土地に雲母で模様をあしらったもの、床の間があり、香炉がおかれている。御殿群は高床式、床下に仕掛けがある。樋筒(大便器)の下には砂を入れた引き出しが用意され、砂雪隠方式の処理ができるようになっており、平安貴族の



御殿群平面図



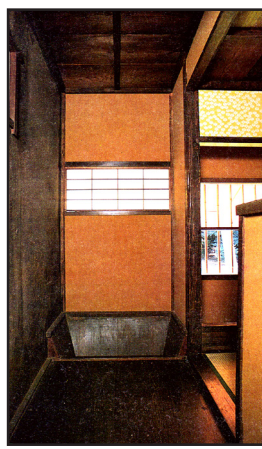
御厠平面図



樋宮（清宮）に似ている。

廊下奥の木製朝顔型小便器の下には玉石を敷き込んであり、地中に処理する。御厠の手前には御手水の間があり、竹張り

床下の引き出し式砂雪隠普段は開き戸が閉じている。の床に流し口と樋台があり流しの下にも玉石が敷き込んでである。竹簾の上、中央の蜘蛛の手には木桶を置き手洗いに使用した。



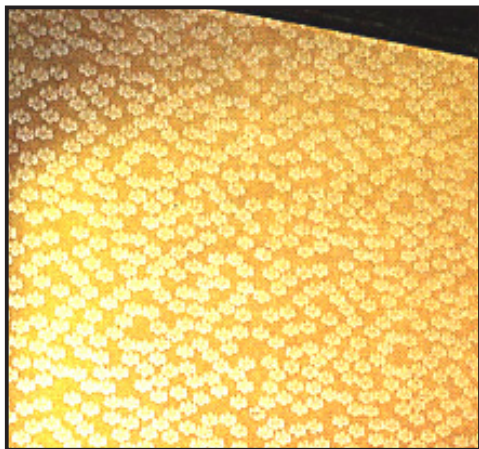
廊下奥木製朝顔型小便器



御手水の間



春慶塗の樋宮のある畳の間



黄土地に雲母で模様をあしらった壁紙



樋台と蜘蛛の手

もう1カ所は実際に見ることができ記録もできた厠である。年賀切手に2つのデザインを提供している茅葺入母屋造の茶亭、松琴亭の外腰掛（待合所）の厠である。松琴亭からの図柄は意識してみないとわからない。



茅葺入母屋造松琴亭



一の間の市松模様の襖



長押に用いられた水仙の釘隠し

青と白の市松模様は斬新でとても 17 世紀のものとは思えない。また、釘隠しは見事な工芸品である。



松琴亭に誘う道のかなり前にある外腰掛

松琴亭から離れて位置する外腰掛の左の木戸を開けると砂雪隠である。本来の砂雪隠は自然石を置き、川砂を盛り、砂かけ用の触杖が置いてあるのだが、現在はどこの茶亭も飾り雪隠という間である。雪隠に置かれた石には名がつけられていた。足掛石、戸ずりの石、裏返しなどである。茶会の前、清掃し水を打ち手桶に砂を山にし触杖をさしておく。お客は雪隠の内部を拝見し亭主の心配りを感じるのが作法とされた。



松琴亭外腰掛の砂雪隠

●ヴェルサユー宮殿

ヴェルサユー宮殿というとトイレが無かったといわれる。1624 年狩猟用のロッジとして建てられ、300 を超える客室に対して王族用のトイレしか無かったために語られた話。粗末な下水設備の発展で 1700 年代末にはどうにかなったとか。



入口からみた宮殿遠景



宮殿近景

先ず、王族クラスといえばマリー・アントアネット、ルイ 16 世が頭に浮かぶ。そのトイレが展示されている。



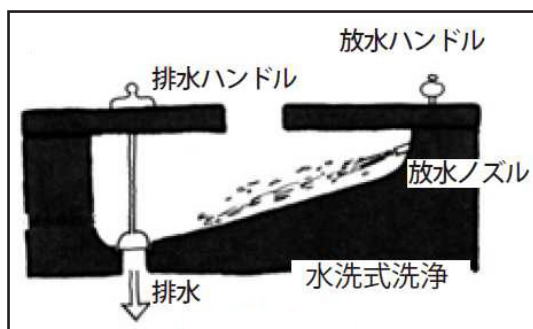


豪華な宮殿内部 鏡の間

アントワネットのトイレはかなりのスペースのある手動式水洗トイレというもの。左右のかかなりのスペースは水の適度な流れと操作位置を考慮したためであろう。



展示されているアントアネットのトイレ



上記アントアネットのトイレの構造



ルイ 16 世トイレの間

一方、ルイ 16 世のトイレは部屋に所定の場を設け豪華なイストイレを準備したようだ。この椅子で接客もしたようで便座は触感もよく長時間に堪えられるクッ



ルイ 16 世玉座トイレ

ションが付いている。ここまで豪華でないイストイレが 300 近くはあったといわれているが、客人、使用人 3000 人の方々の苦労は大変。一番

の解決は portable

commode と表現され、別名チャンバーポット、日本でいうオマルである。更なる問題はそれをどのように使用するかである。



チャンバーポット

庭の植込み、廊下辺りの衝立の影等での使用であったようだが、加えて御婦人方は当時のフープスカートを利用した。



フープスカート骨組み

そして最後はチャンバーポット中身の始末はパリ



ロココを代表するフランス画家・フランソワ・ブーシェが描いた御婦人方の苦労の絵画

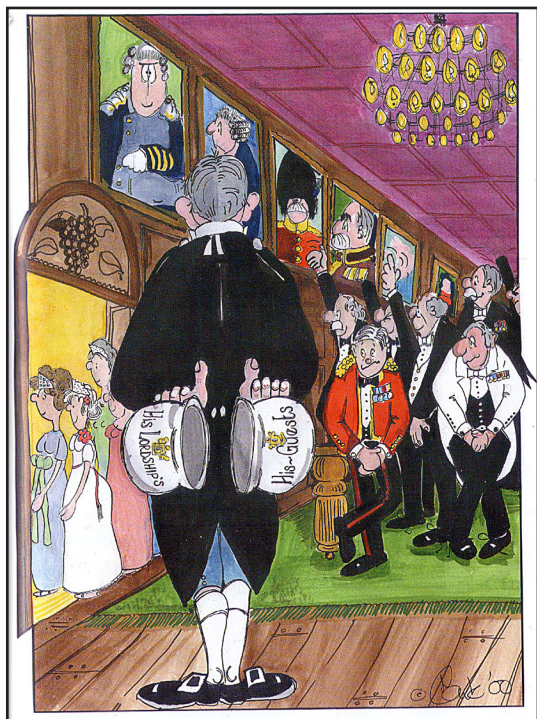
市街の始末と同じ街路へとなると、街路でなく庭園である。庭園は直接始末する殿方とチャンバーポットとでどうにもならない悪香が聞こえる始末となった。パ

りの街路上は流水設備で多少なりとも対応できたが、庭園では大変であったろう。ベルサユの造園に携わったアンドレ・ル・ノートルは苦慮したであろうと推測する、。



造園家アンドレ・ル・ノート生誕 100 年切手
ヴェルサユの庭園を描く

池山会員から土産に頂いた英国トイレ事情の書籍挿絵からも、このような習慣はフランスだけでなく、当時のヨーロッパ共通の姿だったことを知る。



紳士・淑女別のチャンバーポットを手に
主人の使用に備える従者

ヴェルサユ宮殿で忘れられないのがベルサイユ宮殿美術館に 140 年間所蔵され 141 年ぶりに京都国立博物館で公開された蒔絵の山水花鳥蒔絵螺鈿箱という箱便器である。



片輪車螺鈿蒔絵手箱



豆免蒔絵螺鈿硯箱

切手で目にする蒔絵は文箱、硯箱であるが、実際に目にした時は、大きな蒔絵の作品群の中で飾り棚、違い棚等と並んでいた。平戸オランダ商館の帳簿に出荷記録がある特注の蒔絵御おまる。フランス王家に連なる公爵家に伝わっていたという。蓋を開けるとルイ 16 世のトイレと同じく赤いビーロードが張られた座面、そして中には美しきチャンバーポットが準備されている。

あまり、切手に良き香を聞くことできなかったが、これでご容赦いただきたい。一部、会報の品位を傷つけるとお叱りを受ける覚悟での執筆でありました。次回は二条城、王室関連トイレに香を求めていきたいと思う。

小川 義博



山水花鳥蒔絵螺鈿箱



開蓋 座面



山水花鳥蒔絵螺鈿箱の残りの 3 側面

沖縄返還 50 周年



今年、1972 年 5 月 15 日に沖縄が返還
 となってちょうど 50 周年の節目を迎えました。
 返還から 10 年ごとに記念切手が発行されて
 いますが、今年も返還 50 周年を記念した切
 手が(返還記念日の 5 月 15 日が日曜日のた
 め二日前倒しで)5 月 13 日に発行されました。

せつかなので、この 50 年に発行された沖縄返還記念切手をまとめて、今年の 50 周年の特印を押したカバーを作成してみました。

左上は 1972 年 5 月 15 日に発売された守
礼門を描く返還記念切手。当時、封書は 20
円でした。その右は 1982 年発行の返還 10
周年記念。封書料金 60 円時期です。その下
は 1992 年発行の返還 20 周年。消費税が導
入され、料金は 62 円となっています。現在で

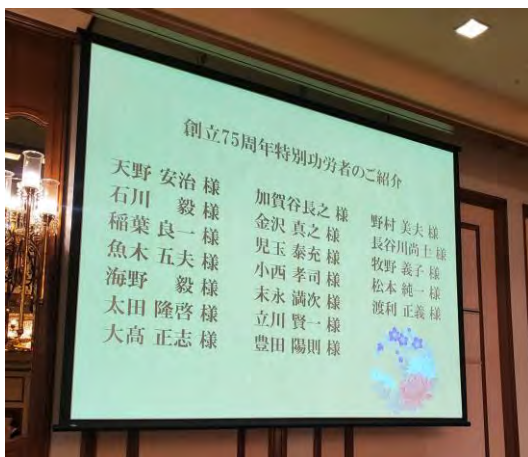
は 60 円切手も 62 円切手も一枚のみに押印することはできませんので、特印は三枚にかけて押印しています。右上は 2002 年発行の返還 30 周年。封書料金 80 円時代です。この頃から左右の耳紙を含めた連続図案の切手が増えてきました。2012 年発行の返還 40 周年は異なる図案の 10 面シートのためばらす勇気がなく、今回は使用を見送りました。右下が今年発行された返還 50 周年切手 5 種のうちの一枚です。こうしてみると、料金の変遷はもちろん、10 年ごとに切手のデザインの潮流も変わってきていることがわかります。お遊びで作成したカバーですが、30 年という月日の移り変わりを垣間見ることができる一枚になりました。(池澤)

日本郵趣協会創立 75 周年記念祝賀会開催

去る令和 4 年 4 月 23 日、公益財団法人日本郵趣協会の創立 75 周年記念祝賀会が帝国ホテル本館 3 階富士の間で開催された。席上では、長期にわたり日本郵趣協会の発展に貢献された特別功労者として、本会の稲葉良一会員が他の功労者 18 名とともに表彰を受けた。



特別功労者表彰を受けた稲葉会員(右から 2 人目)



特別功労者表彰を受けた諸氏 19 名



参加者に配布された 75 周年記念フレーム切手



帝国ホテル内郵便局の風景印と欧文印の記念カード



会場風景



稲門フィラテリー会員のテーブル



食事は吉兆の松花堂弁当



配布された献立表に風景印を記念押印



箸袋とマスクケースに風景印を記念押印

75 周年記念祝賀会には、遠方から足を運んだ方も含め 147名の会員が出席した。当日は土曜日のため帝国ホテル内郵便局は休みであったが、同時期に浅草で開催されたスタンプショウ 2022(令和 4 年 4 月 22 日から 24 日にかけて開催)の会場で帝国ホテル内郵便局の風景印押印サービスが実施された。このページに掲載した記念品は、スタンプショウ 2022 の風景印押印サービスにて作成したものである。

■公益財団法人日本郵趣協会への登録団体加入申請について

当稲門フィラテリーは、公益財団法人日本郵趣協会の登録団体として加入が承認されました。本年3月、かねて申請しておりました公益財団法人日本郵趣協会の登録団体への加入が承認されました。今後は、稲門フィラテリーの活動に、同協会の会議室などをお借りできることになり、当会の活動の幅を広げることができるようものと期待しております。日本郵趣協会は、今年、創立75周年を迎え、先日、その記念式典が開催されました。当協会には稲門フィラテリーの会員も多々入会しており、同式典では稲葉会員が表彰されております。同協会へ入会希望の方は、入会案内書がございますので、青柳までご連絡ください。

■訃報

黒川清知会員におかれましては、誤嚥性肺炎のため、4月2日ご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

◇編集後記◇

今年は沖縄返還 50 周年。ちょうど私が生まれたのが沖縄返還の年（1972 年）ですので、今年はいよいよ 50 歳の大台に乗ることになります。当時 20 円だった封書料金が 84 円。この 50 年で世の中は大きく変わりましたが、次の世代に何が残せるのか、いよいよ考えなければならない年齢にさしかかっていることを、改めて感じ始めています。（池）

■地下鉄スタンプラリー

東京メトロの全駅を巡る「東京メトロ全駅スタンプラリー」が 2022 年 4 月 25 日から始まりました。スタンプといっても、今回は駅に貼られたポスターの QR コードをスマホで読み、スタンプ風の画像を取得するデジタルスタンプラリーです。試しに高田馬場駅と早稲田駅で取得してみました。高田馬場駅のスタンプには早稲田松竹、早稲田駅のスタンプには漱石山房記念館と漱石の肖像が描かれ、なかなか洒落たデザインです。2025 年 2 月 28 日まで開催されていますので、興味のある方は挑戦されてはいかがでしょうか。



東京メトロ東西線高田馬場駅のスタンプ(左)と
早稲田駅のスタンプ(右)

※稲門フィラテリー総会を、10月23日(日)

大学教室で実施する方向で準備しています。

詳細は9月の会報でお知らせします。

発行日：2022年6月1日

発行・著作：稲門フィラテリー

発行人：青柳次男

〒150-0002

渋谷区渋谷 1-11-3 正栄ビル 4 階

(株)英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

編集担当：池澤克就 青柳次男

本会報からの無断掲載・複製は、メディアを問わず禁止します。